

2022（令和4年）3月23日

終業式 講話

1年前の一学期始業式では、アメリカ副大統領に就任したばかりの黒人女性ハリスさんのことば、Democracy is not a state. 民主主義は state つまり状態ではなくて、行動することだ、という言葉引用し、さらに、思想家の丸山眞男さんの文章から「であることとすること」について話をしました。

ハリスさんは、民主主義は勝ち取ろうとする意志が必要であり、あって当たり前だと思っていけないと言い、丸山眞男さんも、立場や権利は常にその行為をし続けることによってのみ保障される、と述べていました。

私もこの1年、校長「である」状態に安住せず、校長「する」という行動をとろうと思ってやってきました。評価は外部の人がすることですが、深志の1，2年生のみなさんは、この1年間深志生「する」ことができたでしょうか。私の目から見ると、コロナ禍の制限のなかではあるものの、いろんなことに一生懸命取り組む姿には元気をもらいましたし、その頑張りには十分称賛に値すると思います。

さて、ロシアとウクライナの戦闘が続いている今、高校生であるみなさんには、ぜひこれからの世の中を作っていくってほしい、いい社会を創造していくってほしい、そんな気持ちをこめて、今日は、これまでに歴史の1ページを飾った一人の人を紹介して終業式の話とします。

英語ではきっと習った人が多いと思います。Martin Luther King Jr. アフリカ系アメリカ人で、キング牧師と言われる方です。1963年、今からおよそ60年前、私がちょうど生まれたころのアメリカで、黒人の公民権運動に尽力した方です。

実は、そこからさらに遡ること100年。1860年ころのアメリカ（日本は幕末の混乱期でした）。当時のアメリカは南北戦争中であり、時のアメリカ大統領が、みんなのよく知るエイブラハム・リンカーンです。

リンカーン大統領は Emancipation Proclamation、いわゆる「奴隷解放宣言」を発出して黒人差別をなくそうとしました。1862年に宣言が出て、差別撤廃の動きが始まって100年後のアメリカ。

100年後の1960年頃になっても、黒人差別がなくならない。そんなアメリカを変えたいと人々が集まった中での演説したのが、今日の主人公キング牧師です。その演説がいまでは有名な I have a dream. というものです。

16分くらいにわたる心揺さぶる演説ですが、(YouTubeで日本語訳の付いた映像が見られますので、興味のある人は後でどうぞ。) その中でキング牧師は6つほどのdreamを力強く語っています。All men are created equal. 全ての人には平等に創られている、ということばを最初に使いながら、one day いつの日か、こうなってほしい、という希望を語っています。

この5年後、1968年に暗殺されてしまうキング牧師ですが、その夢は、奴隷の子供たちも、その雇い主の子供たちと一緒に座れる世界になってほしいとか、不公正な世界が自由と公正のオアシスになってほしいとか、に加えて、キング牧師の4人の子供たちが、肌の色でなく人で評価される国になってほしい、と次のように言っています。

I have a dream that my four little children will one day live in a nation where they will not be judged by the color of their skin but by the content of their character.

その時からさらに60年たった2022年の今。社会は大きく変わってきたアメリカですが、黒人差別は未だ残っていると考えられ、テニスの大坂なおみさんも、差別により亡くなった人の名前を書いて試合に出場したのは記憶に新しいところです。

世の中が変わっていくには時間がかかります。変えるにはエネルギーが必要です。歴史は繰り返します。

ちっぽけな人間がいかがみ合っている世界を、みなさんにはより良き方向にかえていくエネルギーになってほしい。どんな分野でもいい、ここにいる皆さんが世の中を変える一人として活躍してもらうことを心から願っています。濁世の波がどれだけ高くても、自治を命の若人の皆さんであればこそ、です。

年度の終わりに、来るべき新たな1年がみなさんにとって、荒波に抗うエネルギーが蓄えられる有意義な1年になることを期待して、終わります。